

令和5年度  
自己評価報告書

令和6年5月29日

熊本駅前看護リハビリテーション学院

# 目 次

基準 1	教育理念・目的・育成人材像	1	基準 6	教育環境	30
1-1	理念・目的・育成人材像	2	6-2 1	施設・設備等	31
基準 2	学校運営	4	6-2 2	学外実習	32
2-2	運営方針	5	6-2 3	防災・安全管理	33
2-3	事業計画	6	基準 7	生徒の募集と受入れ	34
2-4	運営組織	7	7-2 4	生徒募集活動	35
2-5	人事・給与制度	8	7-2 5	入学選考	37
2-6	意思決定機能	9	7-2 6	学納金	39
2-7	情報システム	10	基準 8	財務	40
基準 3	教育活動	11	8-2 7	財務基盤	41
3-8	目標の設定	12	8-2 8	予算・収支計画	43
3-9	教育の方法・評価等	13	8-2 9	監査	44
3-1 0	成績評価・単位認定等	15	8-3 0	財務情報の公開	45
3-1 1	資格・免許の取得の指導体制	16	基準 9	法令等の遵守	46
3-1 2	教員・教員組織	17	9-3 1	関係法令、設置基準等の遵守	47
基準 4	学修成果	19	9-3 2	個人情報保護	48
4-1 3	就職率	20	9-3 3	学校評価	49
4-1 4	資格・免許の取得率	21	9-3 4	教育情報の公開	50
基準 5	生徒支援	22	基準 10	社会貢献・地域貢献	51
5-1 5	就職等進路	23	10-3 5	社会貢献・地域貢献	52
5-1 6	中途退学への対応	24	10-3 6	ボランティア活動	54
5-1 7	生徒相談	25			
5-1 8	生徒生活	26			
5-1 9	保護者との連携	28			
5-2 0	卒業生・在校生	29			

# 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・目的・育成人材像</p> <p>教育理念は開校当初より明文化され、教職員と生徒・保護者に学生便覧等で周知されている。</p> <p>本校は、教育基本法に則り、専修学校の専門課程として、職業に必要な能力及び創造的能力を育成し、また社会人としての教養の向上を図り、地域に貢献することを目的としている。</p> <p>また、育成人材像については、学科毎に明確に定められており、それを実現するための具体的な計画・方法をカリキュラムやシラバスとして定めるとともに、関連の外部機関との協力・連携のもと、現場のニーズに即応できる人材の育成ができるよう見直しを行っている。</p> <p>なお、学校の特色については、総合パンフレットやホームページで社会に広く公表している。</p>	<p><b>【教育の理念】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛は医の道の出発点である。愛の心を持って病める人の心と身体を癒そう</li> <li>・和は社会人としての道の基本である。和の心は、人・社会・国に平和を与える</li> <li>・「愛と和」の心を持ちこの学舎で共に学び医療にたずさわる者の道を終生進もう</li> </ul> <p><b>【教育の方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校はリハビリテーション医療を通じて、医療・保健・福祉の分野に広く貢献できる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を養成する。</li> <li>・本校は、学校教育法に基づき、医療関係技術者として必要な知識及び技術を習得させると共に多様化する社会に対応できる、深い教養、豊かな人間性、高い倫理観を備え、社会における医療、保健、福祉の分野に貢献できる、看護師を養成する。</li> </ul> <p><b>【本校の沿革】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年（2008年）4月に理学療法学科（定員80名）、作業療法学科（定員40名）、4年課程の昼間部で開学した。</li> <li>・平成21年（2009年）4月に看護学科（定員80名）を新設し、校名を熊本駅前リハビリテーション専門学校から熊本駅前看護リハビリテーション学院に変更する。</li> <li>・平成27年（2015年）及び平成28年（2016年）2月に文部科学大臣から職業実践専門課程の認定を受ける。</li> <li>・令和2年度（2020年）に理学療法学科の定員を40名に変更し、新たに言語聴覚療法学科（定員40名）を新設した。</li> <li>・現在まで、卒業生は4学科で1,700名に上り、全国の医療機関や福祉施設等各方面で活躍している。</li> </ul>

## 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められ、生徒・保護者に周知されているか	<input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を生徒・保護者に周知しているか	4	<p>理念等は学生便覧や学校案内パンフレットに文書化し、明確に定めている。</p> <p>理念等は、生徒集会や保護者会、実習指導者会議などで関係機関等に周知するよう努めている。</p>	本校から送付する文書や保護者会の資料にも教育理念を明記するなど、更に周知を図る。	学生便覧 パンフレット ホームページ
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか	4	<p>臨床実習指導者会議や教育課程編成委員会等において関連業界との協力・連携を図っている。</p> <p>また、県内の病院や福祉施設等の協力のもと、124名の非常勤講師に委嘱を行っている。</p> <p>なお、外部実習においては実習先として県内外多数の医療機関等の協力のもと、短期・長期の外部臨床実習を実施している。</p>	実習先の病院・福祉施設、関係機関との協力・連携を深め、業界のニーズに対応できる人材の育成に向けた意見・情報交換を積極的に行っている。	学生便覧 パンフレット ホームページ

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	3	<p>教育課程編成委員会や各教務会議等での意見を集約し、毎年度教育内容等の見直しを行っている。</p> <p>また、各学科、学年を通して、外部講師による特別講義を実施し、特色のある職業実践教育に取り組んでいる。</p>	毎年見直しを行いながら、より時代に即応した実践教育を行っていくことが必要である。	学生便覧 パンフレット ホームページ
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的（3～5年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を生徒・保護者・関連業界等に周知しているか	3	将来構想について学校運営上必要な場合に、職員会議等において周知を図っている。	将来構想についての議論の場や機会を設けることが必要である。 また、生徒・保護者・関連業界等に周知することが必要である。	職員会議資料 後援会総会資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念等は文書化し、学生便覧、学校案内パンフレット、ホームページ等で生徒、保護者、外部の関係機関等に周知している。育成人材像については、医療機関や福祉施設等の関連外部機関とも連携・協力しながら、現場のニーズに即した人材の育成に努めている。本校の特色を出した実践教育の更なる充実を図りたい。</p>	

最終更新日付	2024年5月2日	記載責任者	白石 正行
--------	-----------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>運営方針 事業計画 運営組織 人事・給与制度 意思決定機能 情報システム</p> <p>本校は、社会に信頼される学校であり続けるために開かれた学校づくりやコンプライアンスの徹底、人権等に配慮した取組みに努めている。</p> <p>また、事業計画に基づいて、計画的かつ迅速な学校運営に努めている。</p> <p>学校運営方針や事業計画は事業計画書で定めており、隔週に開催する運営委員会で進捗状況を確認している。</p>	<p>各学科や広報部において毎年、事業計画を策定しており、事業計画に基づいた運営を行っている。</p> <p>また、事業計画については、職員会議や各教務会議等を通じて、職員間で共有している。</p>

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	-----------	-------	-------

## 2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか	3	<p>運営方針は毎年、各学科の取組み並びに広報活動について文書化し明確に定めている。</p> <p>また、職員会議で教職員等に周知している。</p> <p>校務分掌の明確化を行い、業務効率の改善を行っている。</p>	<p>運営方針については部内、科内の会議を通じて、周知を図るとともに、併せて議論、検証を深めていく必要がある。</p>	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>運営方針は、各学科並びに広報部等において事業計画書において理念・目標を踏まえて定めており、具体的内容については職員会議で概ね周知できている。</p>	

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	-----------	-------	-------

## 2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	3	<p>毎年、各学科並びに広報活動について単年度の事業計画を定め、事業計画には予算、事業目標等を明示している。</p> <p>事業計画・予算の執行状況については改革推進委員会や運営委員会等で進捗状況の把握や見直しを行っている。</p>	<p>事業計画の策定にあたっては、関係機関の意見や現場のニーズを取り入れながら、各部署で前年度の検証を行い、見直しについて更に努力したい。</p>	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>事業計画、予算、事業目標については各学科内、部内で検討し、事業計画書として明示することができている。事業計画や予算の執行状況についても各委員会で把握や見直しを行うことができている。</p>	<p>各部署の事業計画については、職員に周知を図っており、定期的に見直し、改善を行っている。</p>

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	-----------	-------	-------



## 2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	理事会、評議員会は、寄附行為に基づき定期的に開催し、議事録を作成している。	特になし	理事・評議員会資料
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教務組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	<p>学校運営に必要な組織として、教務部、事務部等の組織を整備し、各部署の役割分担を明確にしている。</p> <p>また、学校運営委員会、教務会議等の会議等を開催し、各部署の連携を図っている。その議事録（記録）は、開催毎に作成している。</p>	会議録は法人と共有し、意見交換していく。	学則 校務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営組織については、理事会、評議員会、教務部、事務部等の運営組織を整備し、その連携を図るための会議も適切に開催し運営することができている。	効率的に組織の運営を行っている。また、令和 7 年度に私立学校法が改正されるため、新基準に準拠した運営を行っていく。

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	-----------	-------	-------

## 2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3	給与支給等に関する基準・規程を整備し、運用している。	既存の人事考課方法についての明確な基準や運用について、定期的に見直しを検討していく必要がある。	就業規則 給与規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
給与支給等に関する基準・規程を整備し、運用することができているが、人事考課制度についての基準の明確化や運用については今後見直しを検討していく必要がある。	学校の理念を踏まえた職員個々の目標設定を行い、達成度に応じて評価を行うていくなどの取組も参考となる。

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	-----------	-------	-------

## 2-6 意思決定機能

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定機能は、効果的に確立されているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定は、規則・規程等権限等を明確にしているか	3	<p>定期的に学校運営委員会、教務会議、科長会議を実施し、業務についての意思決定を行っている。</p> <p>教務・財務等の業務処理において、決裁書等の文書において稟議制による意思決定システムを整備している。</p>	決裁書の提出、決裁の迅速化を図るとともに、事前の打ち合わせなど意志決定がスムーズに行われるための努力が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定機能は学校運営委員会や教務会議等において効果的に確立され機能している。決裁書については稟議の迅速化を図るための検討と努力が必要である。メリット・デメリットを含めて、それぞれの職場に適したシステムを検討している。	決裁書については、持ち回り決裁や職員間で協力して書類を迅速にやり取りするよう努めている。

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	-----------	-------	-------

## 2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 生徒に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> 生徒指導において、適切に生徒情報管理システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか	3	<p>生徒の個人情報や成績情報について成績管理システムを構築し、生徒指導において活用している。</p> <p>データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積している。</p> <p>システムのメンテナンス及びセキュリティ管理は外部業者に委託しているが、情報漏洩等の無いよう適切に行っている。</p>	クラウドサーバー上のシステムを利用し、生徒とのコミュニケーションを図る計画を検討している。今後は新しい環境の中で業務の効率化を図っていく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
生徒の個人情報や成績情報については成績管理システムを整備し、生活指導において適切に管理、活用している。	高等教育の修学支援新制度が令和2年度に始まり、今後、生徒の成績情報等の適切な管理・運用が必要となっており、業務の効率化が求められている。

最終更新日付

2024年5月7日

記載責任者

菊竹 悠介

## 基準 3 教育活動

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>目標の設定 教育の方法・評価等 成績評価・単位認定等 資格・免許の取得の指導体制 教員・教員組織</p> <p>教育目標や育成人材像は各業界からの要望等により人材ニーズを把握し、学科の教育機関で達成可能なレベルとしている。</p> <p>カリキュラムは教育課程編成委員会での外部委員からの意見を取り入れ、カリキュラムの編成に反映させている。</p> <p>教科ごとのシラバスも作成されており事前に生徒に配付し、初回講義において達成目標を説明している。</p> <p>教員については、指導力育成や必要な知識・技能を修得するための研修等を計画的に受講している。</p> <p>成績評価・単位認定等は、明確に定められており、生徒に周知徹底されている。</p> <p>生徒のアンケートを基にした授業評価について、特に外部講師へのフィードバックが課題となっている。</p>	<p>年 2 回の教育課程編成委員会の開催を原則とし、カリキュラムのみならず生徒教育等についても意見交換を積極的に行っている。</p> <p>専任教員においては、積極的に学外での学会や研修会への参加並びに学術発表の機会を設けるように奨励している。</p>

最終更新日付

2024 年 4 月 27 日

記載責任者

岡田・有働

## 3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題 今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	事業計画やシラバスを作成し、教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めている。	特になし	学生便覧 シラバス
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか	4	シラバス等を通して、意義・目標を明示し、常勤・非常勤講師と指導・評価方法について連携・協力して、指導及び支援を行っている。  学生便覧に教育目標に対する学年別到達目標を記載し、入学時・進級時等で生徒とともに確認している。(看護学科)	以前に比べて多様な生徒が入学している状況等も勘案し、目標到達に向けた検証や取組みを行っていく必要がある。	シラバス 学生便覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程の編成方針や実施方針は学生便覧やシラバスで明確に定めており、本校の理念に沿った職業教育に関する方針に基づき、学科ごとに目標を定め、資格取得に向けた指導・支援体制を明確にしている。多様な生徒の目標到達に向けた検証と取組みが必要である。	各年次の到達目標を明確に設定し、目指すべき方向性が明確となるように示している。 学修成果の低い生徒に対しては、個別の学習指導と学習方法の再確認ができる働きかけを積極的に行っている。

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題 今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）が作成され、活用しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど、適切な学習指導を提供しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4	<p>学則及び学生便覧で修了に係る授業時数、単位数を明示し、授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成している。シラバスについては高等教育の修学支援新制度の確認要件を満たすための項目を追加した新シラバスのフォーマットを使用している。また、全学科共通の統一様式とし、よりわかりやすくなるよう検討した。</p> <p>指定規則や学則、授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択し、適切な時間と単位数を確保している。</p>	<p>今後も継続的に授業計画や各講義内容がよりわかりやすくなるよう引き続き検討していく。</p>	<p>学生便覧 シラバス 教育課程編成委員会規則</p>
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	<p>教育課程編成委員会を毎年度2回開催し、教育課程の編成及び改定において、関連する業界団体・医療機関等職員の意見聴取や評価を行い、反映させている。</p>	<p>教育課程編成委員の意見だけではなく、臨床現場の指導者等の意見等を幅広く取り入れ、教育課程編成に反映させていく必要がある。</p>	<p>教育課程編成委員会資料（議事録等）</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	3	<p>教育課程編成委員会の評価を取り入れ、キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫している。</p> <p>より看護の現場に近い教育になるよう臨床から認定看護師の外部講師の招聘を増やした。看護観の発表では、認定看護師の卒業生に参加を求めた。(看護学科)</p>	夢の道しるべ事業費補助金をより活用していくためには、早い段階で内容、依頼講師等の検討をしていく必要がある。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 生徒に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	4	<p>授業終了後に生徒に対するアンケートを実施し、授業評価を行っている。</p> <p>また、教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用している。</p>	外部講師へのフィードバックについて検討していく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成については、教育目標、授業計画を明確に定めるとともに教育課程編成委員会等の外部からの専門的な意見を取り入れて、見直し、改善に取り組んでいる。授業評価については、生徒へのアンケートを実施して専任教員のフィードバックを行い授業改善に取り組んでいる。外部講師へのフィードバックが課題となっている。</p>	<p>早期から職業意識を明確に持たせることで目指すべき方向性を明確にしている。</p> <p>臨床実習は指定規則の時間数を超えて実施しており、臨床力強化や組織人としてのあり方等をより多く学ぶ機会としている。</p>

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------



## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、生徒等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4	<p>成績評価の基準については、学則等に規定するなど明確にし、かつ、生徒等に明示している。</p> <p>成績評価の基準を適切に運用するため、教務会議や単位認定会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいる。</p> <p>来年度、新カリキュラム最初の各領域別実習が始まるため、すべての実習の評価基準の見直しを行った。</p> <p>入学前の他の教育機関での履修科目の認定については、共通する科目については単位の認定を行っている。</p>	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価の基準については、学則や内規等で明確に定めるとともに、基準の運用や単位の認定については教務会議や単位認定会議等を通して客観性・統一性を保ち運用することができている。	進級前の未取得単位については、年 2 回の単位認定試験を実施し、確実な単位取得に繋がるよう努力できる機会を設けている。(理学・作業・言語聴覚療法学科)

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	学則等に基づいたカリキュラムで取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしている。	特になし	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4	<p>国家試験全員合格を目標に国家試験対策として過去問の徹底分析、模擬試験や特別講義の実施を行っている。</p> <p>国試対策が不十分な生徒が多かったため、予備校と協力し特別講義を行った。(看護学科)</p> <p>不合格者に対しては本学を学習の場として開放・提供し、次年度の国家試験合格を目指し、現役生と一緒に国家試験対策を実施している。</p>	<p>指導体制はあるが、成果が充分にあがっていない学科があり、対策の再考が必要である。</p> <p>国家試験対策を担当が担っていたが、国家試験対策の教員を1名起き、3年間通しての対策案の立案をし、実際は、担任と生徒の状況を見ながら調整するよう指導体制を変更する。(看護学科)</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>目標とする資格の内容や意義については、学則等に基づいたカリキュラムにおいて明確にされている。また国家資格取得に向けた指導体制は、各学科による国家試験対策や不合格者への指導も含めて適切な運用ができています。</p>	<p>各国家資格の取得は当然であるが、その他にも在学中に資格取得のチャレンジができるように教科を工夫している。住環境コーディネーターやワード・エクセル検定、文章能力検定といった資格の取得も設け、学習意欲の向上に繋がられるようにしている。(理学・作業・言語聴覚療法学科)</p>

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか	3	厚生労働省と公益財団法人医療研修推進財団が主催する教員研修会への参加や長期の教員養成研修、研究大会への参加・発表などを推奨し、教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合するよう努めている。	学会・研修会での発表につながる取り組みや研究を進めることで、教員の知識・技術・技能レベルの向上を図る。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動、自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	各学科において教員研修会や研究大会への参加計画を定めるとともに、参加が容易になるような予算配分等を検討し、適切に運用している。	各学科の要望に基づいた予算配分について更に検討する必要がある。	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題その改善方策	参照資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか	3	<p>学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力を行うとともに、教員と非常勤講師との連携・協力をし、授業内容の充実と生徒の知識・技術の習得に向けた効果的な指導方法の確立に努めている。</p> <p>技術教育については、全ての教員が共通理解して指導できるよう、担当教員のみならず演習計画、評価項目など会議で検討して実施している。(看護学科)</p>	学科を問わず、教科担当教員との連携・協力を図り、常に教科内容と教授方法等について、検討を行っていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>資格要件を備えた教員を確保するとともに、学科ごとに教員組織体制を整備し、授業内容等について検討や改善に取り組んでいる。教員の資質向上に向けた取り組みについても、研修会への参加費を予算に計上し、参加計画を定めて運用している。</p>	<p>各学科の事業計画において学会・研修会等への参加を計画し、予算計上をして積極的に参画できるようにしている。</p>

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率 資格・免許の取得率</p> <p>令和5年度の求人数は理学療法学科2, 899名、作業療法学科2, 477名、言語聴覚療法学科1, 237名であり、リハ3学科で延べ6, 613名であった。看護学科は6, 791名であり、全体として13, 404名となり堅調に推移した。</p> <p>就職内定率に関しては堅調に推移しており、国家試験合格者のうち、就職希望者の医療・福祉機関等への就職率は100%である。</p> <p>令和5年度の学内就職ガイダンスについては、リハ3学科及び看護学科あわせて延べ160件を超える病院・施設等が参加している。</p> <p>国家試験合格率については、作業療法学科のみ全国平均を上回っており、理学療法学科、言語聴覚療法学科、看護学科は全国平均を下回る結果であった。</p> <p>生徒数の減少、学力の低下が目立つ中、各学科とも国家試験全員合格に向け、更なる努力が必要である。</p>	<p>例年、就職後3ヶ月経過後に施設を訪問し、管理者、卒業生の双方からの状況確認を行っている。併せて卒業生には役にたっている授業内容や学びたかった内容等も聴取している。</p> <p>独自の取組みで、一定の評価を施設からいただいている。</p> <p>令和5年度国家試験合格率新卒全国平均：本校（全国平均）</p> <p style="margin-left: 20px;">理学療法士：80.0%（95.3%）</p> <p style="margin-left: 20px;">作業療法士：94.7%（91.6%）</p> <p style="margin-left: 20px;">言語聴覚士：70.4%（87.3%）</p> <p style="margin-left: 20px;">看護師：77.6%（93.2%）</p> <p>国家試験対策としての模擬試験は、業者模試・学内模試を複数回実施。</p>

<b>最終更新日付</b>	2024年5月14日	<b>記載責任者</b>	岡田・有働
---------------	------------	--------------	-------

## 4-13 就職率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 就職説明会やガイダンスを開催するなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	4	<p>最終学年である3・4年担任による指導及び個別面談等を通して病院や福祉施設等への就職活動・就職状況を把握している。</p> <p>「就職説明会」を行い、毎年、多くの病院や福祉施設の採用担当者に就職情報を提供していただいている。令和5年度はオンライン開催形式で行った。(理学・作業・言語聴覚療法学科)</p> <p>2年次に行う就職ガイダンスは、コロナ禍で業者へ依頼し、オンラインで行った。熊本県を中心に生徒の希望施設の参加を依頼した。(看護学科)</p>	<p>就職については、就職率100%を達成しているが、生徒の希望どおりに就職できるよう強化を図っていく。</p> <p>看護師採用試験が少しずつ早まっているため、生徒の就職に対する意識を早期から高める必要がある。ガイダンスの時期も含め対策をしていく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職率は国家試験の合格者においては毎年ほぼ100%を達成しており、国家試験の合格率の向上に努める必要がある。また、毎年、就職ガイダンスを実施し、採用情報の提供や雇用環境についての情報を提供していただいております、生徒の就職活動について医療機関等と連携した取組みができています。	<p>求人状況については、求人票が常に閲覧できるよう、地域別にファイリングしている。病院・施設のパンフレットも同時に閲覧可能な状況にして進路相談室等で管理している。</p> <p>生徒に有益な情報は教員間で共有し、応募期限に間に合わない等の不利益が生じないように生徒に迅速かつ丁寧に情報の提供を行う必要がある。</p>

最終更新日付

2024年4月26日

記載責任者

岡田・有働

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標を設定し、合格実績、合格率について全国水準との比較をおこなっているか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	<p>毎年、外部講師による特別講義や OSCE（客観的臨床能力評価）等を実施し、授業を補完する学習支援を行っている。</p> <p>また国家試験全員合格に向け、過去問の徹底分析や弱点補強のための特別講義等国家試験合格に向けての国家試験対策も実施している。</p> <p>合格実績、合格率、全国水準との比較を行い、国家試験対策の検証を行っている。</p> <p>学習の積み重ねが不十分の生徒が多かったため、予備校の協力を得て国試対策のセミナーを行った。(看護学科)</p>	<p>生徒個々の能力を把握し、それに応じた個別指導を徹底する等、国家試験の合格率を高めるための更なる努力が必要である。</p> <p>1年次からの積み重ねが重要だが、低学年ではなかなか実感していないため、定期的に看護師になることへの意欲向上を図ることが必要である。(看護学科)</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外部臨床実習に向けた学習支援や国家試験対策等に取組んでいる。合格実績や合格率等は他校との比較を行い、情報交換等を行いながら、毎年検証を行っている。生徒個々の能力を把握し、個別指導を徹底するなど、国家試験の合格率向上のための更なる努力が必要である。	国家試験対策の特別講義や学習内容の復習が可能となるセミナー等での知識の整理、各種模擬試験結果をデータ分析することによる到達度の確認を行っている。

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 基準5 生徒支援

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職等進路 中途退学への対応 生徒相談 生徒生活 保護者との連携 卒業生・在校生</p> <p>生徒の進路支援については学科、担任において個別指導を行う体制をとり就職内定率も堅調に推移している。</p> <p>生徒相談に関しては、スクールカウンセラーが個別に相談に応じている。</p> <p>生徒の経済的な支援は、分割納入制度や各種奨学金、法人独自の奨学金制度を創設しているが、今後は大規模災害や家計急変による相談・支援体制も整備していく必要がある。</p> <p>生徒の健康管理については、毎年健康診断を実施しており、また、予防措置等を図っている。</p> <p>保護者との連携は、電話連絡で日常的に行っているほか、必要に応じ三者面談を行っている。例年、保護者会を開催し学校の取組みと就職状況などを報告している。</p> <p>卒業生との連携を深めるため、例年、卒業生講演会等を行っている。令和4年度はオンライン開催だったが、令和5年度は対面形式で行った。</p>	<p>在学期間中の学校生活では、学業成績や人間関係等で悩みを抱える生徒がいるため、教務部長、学科長、担任、カウンセラー等が連携して、生徒の相談に当たって、問題の解決に努めている。</p> <p>また、クラブ（運動部やボランティア部）の活動についても本校及び後援会から大会参加費等の補助・支援を行い、校外活動への積極的な参加を促している。</p>

最終更新日付

2024年4月26日

記載責任者

岡田・有働



## 5-15 就職等進路

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-15-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	<p>各学科において、生徒が就職試験を受けるにあたり、事前に履歴書の書き方の指導や、病院の過去の面接試験情報などを参考に面接対策を実施している。</p> <p>生徒の希望や適性に応じた就職先を紹介するなど個々の生徒の希望や適性を尊重した指導を行っている。</p> <p>就職ガイダンスの一部として、履歴書の書き方、面接の受け方についてマイナビに依頼してセミナーを開いている。(看護学科)</p>	担任だけではなく、各学科全体で生徒の就職活動について、情報を共有し、就職活動の支援に取り組む必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科において担任を中心に就職支援を行っており、就職試験の前には個別に出願や試験対策等についての指導を行っている。進路相談では生徒の希望や適性に応じた指導を行い、就職内定率も毎年堅調に推移している。	特になし

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 5-16 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-16-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 指導経過記録を作成し、中途退学の要因、傾向を分析しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<p>中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等はデータ化し把握している。</p> <p>退学などの相談については、担任が適宜行い、指導経過記録を適切に保存している。</p> <p>担任による個別面談の実施や週1回専任のスクールカウンセラーを配置し、外部機関とも連携を図るなど生徒の相談・支援体制を整えている。</p>	中途退学の減少に向けては、出身高等学校との連携を図るなど、生徒の学習面、心理面でのサポート体制を更に充実させていく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学者の低減に向け、各学科で中途退学の要因や傾向を分析して、減少に向けた取組みに活かしている。担任による個別面談やスクールカウンセラーの積極的な活用、出身高校との連携を図っている。今後も学習面、心理面からより充実したサポート体制を検討していく必要がある。	高校時代の不登校やうつ状態、適応障害の診断を受けた経験のある生徒も入学しており、そのような場合は、卒業後も見据え、スクールカウンセラーから、心療内科や精神科の思春期外来の受診を勧め、メンタル面の調整と学業の両立を図れるようサポートしている。

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 5-17 生徒相談

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-17-1 生徒相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 生徒に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか	4	担任による個別面談の実施、週1回専任カウンセラーを校内に配置し、生徒が相談できる体制を整備するとともに、相談記録は適切に保存している。  教務会議等で生徒個々の情報の共有を行い、カウンセラーと連携して相談に取り組んでいる。	問題が深刻化する前に早期に相談できるよう生徒情報の共有や教職員の連携を更に深める必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任による個別面接の実施や専任カウンセラーによる相談体制を整備し、生徒の相談に対応している。相談記録を適切に保存し、カウンセラーとの情報も共有することができる。生徒が抱える問題が深刻化する前に早期に把握できるよう些細な変化に注意し、面談の実施やカウンセリングに繋げていく必要がある。	特になし

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 5-18 生徒生活

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-18-1 生徒の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度や分割納付制度等を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか	4	<p>生徒の経済的な支援については、分割納入制度や各種奨学金、法人独自の奨学金制度を創設している。</p> <p>学納金の納入が難しい生徒及び保護者には公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応している。</p> <p>令和2年度より実施された高等教育修学資金新制度における適用校として認定を受ける。</p>	<p>経済的に困窮している生徒のために入学次年度以降の授業料等の支援制度について、検討する必要がある。</p> <p>大規模災害発生時及び家計急変時に対応する相談体制を整備していく必要がある。</p>	
5-18-2 生徒の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか	4	<p>毎年4月に定期健康診断を実施して記録を保存している。</p> <p>保健室を清潔・安全に利用できるよう使用規定を作成・周知した。</p> <p>担任が毎日健康観察を行いながら生徒の健康管理を行っている。</p>	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-18-3 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	4	<p>教員を各クラブの顧問として配置し、クラブ活動等の団体の活動状況や大会実績を把握している。</p> <p>顧問の教員が大会へ引率し、学校及び保護者後援会から参加費や用具の購入費などの具体的な支援を行っている。</p>	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>定期健康診断の実施や担任による健康状態の把握など生徒の健康管理体制をとることができている。クラブ活動等の課外活動に対しては十分な支援ができている。経済的側面については入学時の授業料等免除は十分な支援ができているが、今後は在学中の家計急変や大規模災害等への即応的な相談・支援体制の整備が必要である。</p>	<p>入学時の授業料免除や学内優秀者奨励金支給制度等を実施するとともに、生徒や保護者の相談に応じながら、経済的な面でのサポートを行っている。また、学納金の延納（分割払）についても保護者との面談を行い、柔軟に対応している。</p>

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 5-19 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-19-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<p>各学科・学年の保護者会をオンラインで開催し、学校の教育活動に関する情報提供を行っている。</p> <p>出席日数の不足、学力不足、心理面等の問題のある生徒には担任から保護者に連絡し、必要であれば保護者面談、三者面談を行い、解決に向けて、保護者と連携を図っている。</p> <p>また、成績に配慮を要する生徒への相談会を各学期に実施している。</p>	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>保護者会などを定期的で開催しており、学校の教育活動についての情報提供ができています。</p> <p>保護者面談や三者面談等も適宜行っており、保護者との良好な関係と連携ができています。</p>	特になし

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 5-20 卒業生・在校生

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
5-20-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の病院・施設等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生・在校生の学会等での発表状況など、社会的活躍を把握しているか	3	<p>卒業生については実習地訪問や就職先訪問、臨床実習指導者会議、同窓会活動を通じて活動状況を把握するよう努めている。</p> <p>毎年、各方面で活躍している卒業生を講師として招聘し、卒業生講演会を実施し、在校生への啓発に努めている。</p>	卒業生の活動状況の把握を進めるため、同窓会と学校との連携を深めていきたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の社会的な活躍及び社会的評価については、実習先や就職先のお礼訪問、同窓会活動等を通して活動状況等を把握している。</p> <p>また、現場で活躍する卒業生を講師として招いて卒業生講演会を実施し、生徒の啓発にも努めている。</p>	1, 741名の卒業生が全国で活躍しており、その活躍等を在校生に紹介していきたい。

最終更新日付	2024年4月26日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備等 学外実習 防災・安全管理</p> <p>施設・設備等については、常に使用状況等の確認を行っており、使用不能（不良）の場合に対応するため、計画的に予算化し、修繕等を実施している。</p> <p>学外実習については、カリキュラム上明確に位置付けられているとともに、成績評価の基準を明確に定め、実習指導者との連携体制のもと、評価を行っている。</p> <p>また、臨床実習指導者会議や担任教員による計画的な実習地訪問を実施し、関係機関との連携を常に図っている。（令和5年度の臨床実習指導者会議は、オンラインで開催した。）</p> <p>看護学科は、臨地実習指導者会議を行うとともに、各実習において領域担当教員および実習指導教員が連携し現場での指導を随時行っている。</p> <p>なお、防災・安全管理については、消防計画に基づき定期的な消防訓練を実施するとともに警察等と連携しながら、防犯対策を実施している。</p>	<p>開校15年を超えて、機材等の不良による修繕等については計画的に予算化し実施していく必要がある。</p>

最終更新日付

2024年5月2日

記載責任者

白石 正行



## 6-21 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
6-21-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか	3	施設・設備・機器類等については、設置基準及び関係法令に適合したものとなっている。  図書室（2ヶ所）、実習室など、生徒の学習支援のための施設を整備している。	今後も設備や機器の老朽化に伴う修繕等を実施していく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備・機器類は設置基準や関係法令等に適合したものとなっている。専門分野の図書の購入についても毎年計画的に実施している。 今後も機材の老朽化に伴う修繕や図書の充実を図っていく必要がある。	必要な機材等は予算計上を行い、計画的に修繕・購入するよう努めている。

最終更新日付	2024年5月2日	記載責任者	白石 正行
--------	-----------	-------	-------

## 6-22 学外実習

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
6-22-1 学外実習の実施体制を整備し、関係機関との連携が図られているか	<input type="checkbox"/> 学外実習について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保するとともに教育効果を確認しているか	4	<p>学外実習について、成績評価基準を明確にしている。</p> <p>外部臨床実習については、電話による状況確認や教員が実習先へ訪問またはオンラインで、生徒と面談を行う等、実習指導者との情報交換を行い、生徒への指導・支援を行っている。</p> <p>実習要項を作成し、各実習施設へ出向いて要項の配布・説明をしている。実習中も実習場での指導をしており、随時担当教員と指導者が情報交換している。実習終了後の評価については、全施設に案内を出しオンラインでの指導者会議を開催した。(看護学科)</p>	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外臨床実習はカリキュラム上、明確に位置付けられている。実習指導者会議や実習地訪問等を通して実習指導者と連携を図り、実習の教育効果の向上に向けて取り組むことができている。学外実習の成績評価については明確な基準に基づいて行っている。	実習施設の指導者との関係性はおおむね良好であり、連携して生徒指導・支援に取り組んでいる。

最終更新日付	2024年4月27日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 6-23 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題 課題の改善方策	参照資料
6-23-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか	3	<p>消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応している。</p> <p>防災（消防）計画を策定するとともに、防災訓練を定期的実施し、記録を保存している。</p>	消防訓練・防災訓練の実施方法等について検討していく必要がある。	
6-23-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 生徒の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	4	警察や地方公共団体との連携を取りながら、生徒の安全に向けた対応を実施している。学校全体の安全管理に対する計画・マニュアル等の作成を進めている。	安全計画やマニュアルの作成・見直しを行っていく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防計画を策定し、それに基づいて、消防設備点検を年2回実施するとともに消防訓練（消火訓練・避難訓練）も実施している。防犯対策については警察や地方公共団体との連携を取りながら、取組んでいる。	特になし

最終更新日付	2024年5月2日	記載責任者	白石 正行
--------	-----------	-------	-------

## 基準 7 生徒の募集と受入れ

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>生徒募集活動 入学選考 学納金</p> <p>毎年、高等学校の進路指導主事等を対象とした学校説明会を開催し、学校の現状や国家試験対応、就職状況等の情報を提供している。</p> <p>学校案内用パンフレットを制作し、ホームページにも学校情報を掲載している。また、定期的に県内外の高等学校訪問を実施し、学校案内やイベント情報を進路指導担当の先生方に周知するとともに、進路ガイダンスへの参加、オープンキャンパスや入試情報の提供など生徒募集に向けた全学的な取組みを行っている。</p> <p>ここ数年、インターネットによる情報収集が増加してきていることから、ホームページの SEO 対策に加え MEO 対策を講じ、Instagram や YouTube 等 SNS を活用した新たな広報活動に取り組んだ。また、WEB 出願を導入し、看護とリハの募集内容の大幅な見直しを行い、さらなる使い勝手の良さを追求する。</p> <p>広報部は、対外的な広報業務全般について取り組んでいる。様々な広報活動に対する実働への協力体制（他部門からの協力）は充実しているが、企画事務全般を行う業務に人員不足があり、特に入卒業式の企画運営が新年度の企画発案時期と重なり、スタートの出遅れ感が否めず、その後の年間を通じた企画の遅れが課題となる。</p>	<p>少子化と大学進学志向の高まり、大学の医療系学部の新設などの理由により、専門学校進学者の減少傾向は留まりを見せない。志願者の減少により、入学者を選抜できない状況にある中で、コミュニケーション力や学習習慣が構築できていない生徒への対応をより充実させていく必要がある。</p> <p>また、同種の養成校が多い中で、選ばれる学校となるために、学校の魅力・特色を高める学校づくり、教育活動を行っていることを発信する必要がある。</p> <p>特に、進級規定や授業内容の見直し、日頃の教員の生徒対応については再考すべき課題となっている。原級留置はおのずと継続した学びとならず、進級率の低さは休学・退学率の高さとなり、当校の評判に影響し、誰でも進級させれば良いという問題ではないが、高校生にお勧めしない学校になってしまうと懸念される。</p> <p>広報部として、左記に述べた広報活動により、各職種の仕事のやりがいや学校の良さについて、高校教諭や高校生、その保護者に対して広く啓発してはいるが、どれが功を奏するアイテムなのかは、正直難しい問題であり、最も重要なことは、内向きの広報である「在校生の満足度を上げる」取り組みに力を注ぐことであると考ええる。</p>

最終更新日付

2024年5月7日

記載責任者

大石 宝予

## 7-24 生徒募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
7-24-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	<p>高等学校内やその他の会場で行われる進学説明会（ガイダンス等）に積極的に参加し、高校生に対し教育活動や入試情報等の情報提供を行っている。</p> <p>毎年6月に熊本県内の高等学校等の教職員に対する学校説明会を実施している。</p>	<p>大学進学志向の高まりにより、専門学校志願者が減少している中で、高校教諭や高校生とその保護者等へ職業教育の理解を深め、専門学校での学びの良さを広め、志願者の掘り起こし、全職員をあげて、生徒募集に取り組む必要がある。</p> <p>指定校推薦の案内時期の早期化（6月→4月へ）</p>	パンフレット 生徒募集要項

<p>7-24-2 生徒募集を適切、かつ、効果的に行っているか</p>	<p>□入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始して生徒募集活動を行っているか □志願者等からの入学相談に適切に対応しているか □学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか</p>	<p>3</p>	<p>入学時期に照らし、専修学校団体が行う自主規制に即した適切な時期に願書の受付を開始している。 (10月1日より願書受付開始)</p> <p>学校案内パンフレットは毎年見直しを行っており、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介するよう努めている。</p> <p>オープンキャンパスを毎年複数回実施し、実施内容の工夫など行うとともに、募集要項説明や保護者対応、個別相談を通して、志願者等からの入学相談に適切に対応している。</p>	<p>受験申込方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを介した出願</li> <li>・リハと看護の募集内容の見直しの実施</li> </ul> <p>学校案内パンフレットでは掲載できない情報は、副本の制作やチラシを作るなどして対応している。</p> <p>オープンキャンパス参加後のアプローチ（その後のオープンキャンパスのご案内や情報発信など）を充実させたい。</p>	<p>パンフレット 生徒募集要項</p>
-------------------------------------	---	----------	--	--	--------------------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校案内用パンフレットを作成するとともに副本の制作、募集要項の見直し、定期的な高校訪問、進路ガイダンス、高校教職員向けの説明会の実施など適正に募集活動を行っている。</p> <p>オープンキャンパスは、学校選びの重要なアイテムであることから、各学科内で検討や工夫を重ね、志願者の増加につなげたい。</p>	<p>少子化と大学志向の高まりにより、志願者が減少している中で、職業教育を広く啓発していく必要があるとともに、4学科の強みを活かす等より魅力・特色を高めた教育活動及び広報活動を実施していく必要がある。</p> <p>対外的な広報活動も重要だが、在校生の満足度を上げることが最も重要な広報活動になるため、活性化委員会でまとめた生徒からの要望等に真摯に向き合い改善する必要がある。</p>

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	大石 宝予
--------	-----------	-------	-------

## 7-25 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
7-25-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	<p>入学選考基準、方法は、入学試験規定及び合否判定要領で明確に定められている。</p> <p>また入学選考は、入試委員会を開催し、判定会議を経て合否を決定するなど、公平かつ適切に運用している。</p> <p>入学選考基準や特待生選抜基準は入試制度に合わせて見直しを行っている。</p>	<p>これまで、リハと看護で入学試験の内容に大幅な相違があり、受験生の誤解を招く事態となることもあったため、入試検討会議を開催し、すべての出願内容を同様にする改善を行った。</p>	
7-25-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	3	<p>少子化の傾向により、志願者数の減少、入学生の低学力化を踏まえ、新入生宿泊研修や特別講義等を取り入れ、学習意欲を向上させるための工夫を行っている。</p> <p>授業の方法等について教員と非常勤講師等が生徒情報を共有し、より効果的な指導が行えるよう努めている。</p> <p>財務等の計画数値は応募者数の予測値をもとに策定しており、整合性が図られている。</p>	<p>高等学校の調査書や入学試験結果の情報をもとに、生徒の学力や得意分野等を把握し、生徒個々に対する個物指導、授業改善に今後も取り組んでいく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学選考基準や方法や規定に明確に策定し、入試委員会を開催して適切に運用している。志願者の減少により、コミュニケーション能力や学力の低下した者が入学してくる傾向が高まっているため、それを踏まえた授業対応や様々な改善策が最重要課題である。</p>	<p>志願者の減少により、志願者数の予測や入学者の選抜が難しい状況にある。学費サポート制度を充実させ、奨学金や高等教育無償化制度等の適切な利用を支援し情報発信に努める。また、指定校推薦制度や特待生選抜入試、その他特徴ある入試制度により受験しやすさを追求し、志願者の増加を図りたい。</p>

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	大石 宝予
--------	-----------	-------	-------



## 7-26 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
7-26-1 学納金は、教育内容や生徒及び保護者の負担感を考慮し、妥当なものとなっているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	<p>学納金の内容については「生徒募集要項」並びに「入学手続きのご案内」、ホームページでも告知している。</p> <p>学納金等の徴収する金額は、授業料等の他に教科書代、白衣・シューズ代等の金額を明示している。</p>	特になし	生徒募集要項 入学手続き案内 ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は生徒募集要項や入学手続きのご案内に明示するとともに、ホームページでも周知している。学納金等の徴収する金額は年度や学科によって異なるができるだけ細かく明示するようにしている。	特になし

最終更新日付	2024年5月2日	記載責任者	白石 正行
--------	-----------	-------	-------

## 基準 8 財 務

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務基盤 財務分析 単年度予算・中期計画 執行管理 監査 財務情報公開</p> <p>財務状況に関しては、予算に対して適切な執行が行われている。しかしながら、入学者の減少や退学者などにより、年々収入が減少してきている。</p> <p>財務状況の改善への取組みとして、収入に関わる生徒募集に関しては、広報活動及びオープンキャンパスなどの内容の改善などに努めている。また、支出に関しては、経費支出状況の見直し、消耗品の購入方法の検討など、部署毎の節約への取り組みの積み重ねを励行している。</p> <p>情報公開に関しては、毎年度決算情報を学校ホームページにて公開しており、今後も継続して行っていく。</p>	<p>令和5年度は5月より新型コロナウイルス感染症の分類が変わったことに伴い、臨地実習や行事関連などは以前と同様の形で行うことができた。新型コロナウイルス感染症蔓延時の遠隔講義や学内実習なども一部活用し、教育現場の質の担保を図っている。</p> <p>令和5年度の決算においては、開校から15年を経過しており、エレベーターの部品交換や防災装置のバッテリーの交換など、修繕維持に係る費用の増加があった。今後も増加が見込まれるため令和5年度予算にて施設整備費を積立ており、計画的な修繕維持を行っていく。</p>

最終更新日付	2024年5月28日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	------------	-------	-------

## 8-27 財務基盤

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
8-27-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 事業収支計算書の各支出においてマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	4	収入と支出のバランスは概ね取れており、問題ない。しかしながら、生徒数は年々減少傾向にあるため、広報活動の充実など対応を行っている。新型コロナウイルス感染症の分類変更に伴い、感染対策を行った上で、従来型の対面でのオープンキャンパスを行った。また、行事に関しても宣誓式や文化祭などを従来の形で開催している。	生徒数の減少や退学者に伴う学納金等の収入の減少が目下の課題である。入学者を増加させるために、学校の魅力を掘り起し、高校生のみならず社会人にも伝えていくことが必要である。また、退学者を減らしていくために、教員やスクールカウンセラーによる積極的な生徒のフォローを行っている。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表
8-27-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（消費収支または事業活動収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	5	財務分析に関しては、年度ごとに収支の状況を把握すると共に、補正予算の作成を行う際も行っている。また、毎月予算の執行状況の分析を行う会議を開催しており、各種財務資料を提示することで、部署ごとの財務状況の管理を促している。	学校の財務状況を正確に把握し、今後の学校運営に活かしていくために、財務諸表をもとに経年での財務分析を行っていく必要がある。平成30年度より単年度の財務諸表だけでなく、3年間の推移表を作成し、単年度の分析と併せて行っている。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 現預金残高推移表 財産目録

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
8-27-2 続き	<input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか				

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務基盤を安定的なものにするためには、収入の大部分を占める学納金に係わる部分の課題改善が必要となる。入学者を増加させ、退学者を減少させる取り組みを学校全体が一丸となって行う必要がある。また、現在の学校の収支の状況及び経費支出の分析を単年度ではなく、経年的に細かく行うと共に、教職員間で情報共有し、部署レベルでの経費節減を行っている。</p>	特になし

最終更新日付	2024年5月28日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	------------	-------	-------

## 8-28 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
8-28-1 年度予算、中期計画は学校がおかれた現状を踏まえて妥当なものを策定しているか。	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、収支の現状を踏まえたものになっているか <input type="checkbox"/> 予算編成過程及び決定過程は明確になっているか	5	中期計画に関しては、収入が減少傾向にある状況を踏まえて、問題の改善及び収入の補填手段の模索を行いつつ策定している。単年度予算は、事業計画をもとに各部署が科目ごとの詳細なものを起案し、内容を精査した上で策定している。	入学者の減少などによって年々収入が減少している。収支のバランスが取れた予算の策定を行う必要があり、支出に関しては必要性、緊急性などを考慮し計画的な予算を策定しなければならない。収入について増加及び経費節減の双方向での具体的な解決策を検討していく。	予算書 補正予算書 決算書類 事業計画書
8-28-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	5	予算の執行状況に関しては、月ごとに試算表を基に確認を行っており、適切な執行ができています。新型コロナウイルスの影響下において、一部行事関連を縮小して行っているため、経費が減少しています。1月下旬より補正予算の作成を行い、理事会にて承認を得ています。	単純な予算の執行だけではなく、経費の節減に対する意識を教職員全体で共有して取り組む必要がある。学校の財務状況を教職員それぞれが把握して経費の節減に取り組んで行くことが必要である。	予算書 補正予算書 決算書類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育目標、中期計画に沿った年度予算の作成を行うことができ、各部署が予算の原案の作成に携わることで、財務状況の共有化を図っている。今後の課題として、スムーズな予算の執行が行えるように経理規程を再整備すること、また予算執行状況の周知を行い経費の節減につなげていく必要がある。	令和6年度予算に関しては、修繕維持や設備投資などを考慮した上での予算編成となっている。

最終更新日付

2024年5月28日

記載責任者

菊竹 悠介

## 8-29 監査

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
8-29-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか	5	寄附行為に基づいて監事による決算監査を行っている。また、監事に監査報告書を作成してもらい、理事会・評議員会にて報告を行っている。	監事による決算監査以外は、経理関連部署による自己点検のみとなっている。定期的な内部監査を行うことが必要である。 定期的に内部監査を行うことで、会計関連の透明性を担保していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法及び寄附行為に基づき適切な監査を今後も行っていく。	特になし

最終更新日付	2024年5月28日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	------------	-------	-------

## 8-30 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題 課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	5	公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいる。	特になし	ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報は、ホームページに情報公開のページを設け、公開している。今後も積極的な情報公開に取り組んでいく。	令和2年度より開始された「高等教育無償化の制度」で求められる、機関要件の確認申請に伴い、より詳細な財務情報の公開を行っている。

最終更新日付	2024年5月28日	記載責任者	菊竹 悠介
--------	------------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令、設置基準等の遵守 個人情報保護 学校評価 教育情報の公開</p> <p>個人情報の管理は、システム上におけるセキュリティの強化を図っている。また、ホームページについても「<b>Hypertext Transfer Protocol Secure</b>（ハイパーテキスト・トランスファー・プロトコル・セキュア）」化し、セキュリティを高めた。</p> <p>教職員が、人権研修会等へ積極的に参加して、入学試験における不適切質問等が無いように努めるとともに、日ごろの教育活動においても人権意識をもって業務にあたっている。</p> <p>学校内にハラスメント委員会を設け、生徒をはじめ、教職員の人権を守る取り組みを行っている。また、校内研修を実施し、コンプライアンスの徹底、学校としての社会的評価を高めるよう努めている。</p> <p>安易な SNS やクラウドサービスの利用による個人情報の漏洩、ならびにハラスメント防止教育を充実させていく必要がある。</p>	<p>コンプライアンスの徹底を図るため、外部講師を招聘したセミナーの実施や学内研修を実施するなどし、教職員と生徒双方の教育の充実に努めたい。</p> <p>ハラスメントについては、ハラスメント委員を選任し、日頃からハラスメントの防止について意識化はできているが教職員により感じ方の違いがある。</p> <p>教職員の中には、これまで通り「医療系の学校だから」とか「医療の仕事に就くんだから」とかいう、昔ながらの考えをもって、今の生徒の生き方や育ちに共感できず、理不尽な指導を受けたと言う生徒がいることは事実。また、保護者からのクレームについては、自身の子どもへの攻撃を恐れ、内密に動いてほしいといった要望もあり、該当者へ直接的な指導ができず、再発防止につなげられていない現状もある。このことから、生徒から評判の悪い教職員は同じことを繰り返す実態がある。</p> <p>学科長や教務次長・部長・・・というように、適切な指導につなげたいが、教職員間での注意喚起が殆ど実施されていない、もしくは正しく指導されていない現状がある。</p>

最終更新日付	2024年5月7日	記載責任者	大石 宝子
--------	-----------	-------	-------



## 9-31 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題 課題の改善方策	参照資料
9-31-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、生徒に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4	<p>関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っている。適切な学校運営のために、関係法令の制定・改廃には注意し、迅速に対応するよう努めている。</p> <p>熊本県専修学校各種学校連合会の職員研修等を通じて、関係法令、人権についての意識を高めている。教職員に対しては職員会議や教務会議において注意喚起と研修を実施するとともに、ハラスメント委員を任命し、相談体制を整えている。</p> <p>生徒に対しては、各担任による指導、実習前の全体指導を通して教育を行っている。</p>	<p>今後も関係団体等の研修会等に積極的に参加し、関係法令や人権について学びを深めていく必要がある。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令、設置基準に基づいた学校運営を行うことができているが、最新の機器とは言えない状況で老朽化などの問題が浮上している</p> <p>教職員に対しては各種研修会等を通じて、コンプライアンスの徹底、人権意識の高揚、法令違反に努めている。</p> <p>また、ハラスメント委員は、相談者からの相談内容の把握やその後の対応・対策に努め、ハラスメント防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修会や職員会議等を通じて、教職員・生徒のコンプライアンス意識をさらに高めていく必要がある。凝り固まった考え方の柔軟化が求められる。</p> <p>今後は、「合理的配慮」に基づき、発達障害やしいてはLGBTや性的マイノリティへの取り組みも重要な課題である。</p>

最終更新日付

2024年5月14日

記載責任者

大石 宝予

## 9-32 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
9-32-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 生徒・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<p>個人情報管理に関する啓発及び指導を行い、知り得た個人情報については日頃から特に意識して取扱いを行っている。</p> <p>広報活動や入学手続き等で情報を取得するにあたっては、「個人情報の取り扱いについて」の説明書きを明示して適正に取得している。生徒・教職員に個人情報管理に関する啓発及び指導を行っている。特にSNSを介した情報漏洩等については日頃から意識して指導を行っている。</p>	個人情報の重要性を踏まえ、今後も生徒・職員への教育を充実させていく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
SNS を介した情報漏洩については、外部実習において知り得た情報を漏洩してしまうケースが他校において報告されているなど、漏洩の危険は高まっており、日ごろから意識して、職業倫理を遵守、コンプライアンス徹底の観点から生徒指導を行う。今後も教育の充実に努めていきたい。	パンフレットには、これまで登場生徒の出身校や学科、氏名等を掲載していたが、昨年度から通しのイニシャル表記にするなど、個人情報への配慮を実施している。

最終更新日付	2024年5月14日	記載責任者	大石 宝予
--------	------------	-------	-------

## 9-33 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
9-33-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行い、その結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等で組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	毎年度自己評価を行い、評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表している。	令和2年度から始まる高等教育無償化制度に伴い、自己評価を当該年度内または次年度当初に行う必要がある。	自己評価報告書
9-33-2 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行い、その結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等で関連業界等から委員を選任するなど組織体制を整備し、取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	学則及び規程等を整備し、設置課程・学科に関連した職能団体や医療機関・施設等に所属する外部委員、高等学校職員、保護者・卒業生代表に参加してもらい、学校関係者評価を行っている。また、評価結果については、ホームページで公表し、学校改善に向けた取組みに努めている。	令和2年度から始まった高等教育無償化制度に伴い、毎年度6月頃までに機関要件の更新申請を行い、学校関係者評価を行っている。	学校関係者報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己・学校関係者評価結果はホームページに掲載しており、広く社会に公表することができている。 学校関係者評価委員は外部の医療・福祉業界の専門家、有識者などを選任している。 なお、評価結果に基づく学校改善に今後も努めていく必要がある。	特記事項なし

最終更新日付	2024年5月2日	記載責任者	久保 由香理
--------	-----------	-------	--------

## 9-34 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
9-34-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 生徒、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか	4	学校の概要、教育内容等を生徒、保護者、関係病院等などに積極的に公開している。 新入生説明会、保護者会、後援会総会、臨床実習指導者会議、高等学校教職員対象学校説明会、就職ガイダンス等の機会を利用し、積極的に周知を図っている。	教育内容の公表が学校の PR につながるため、授業計画書等の教育内容の情報公開を行う必要がある。	パンフレット シラバス ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の概要や教育内容については、生徒、保護者、関係病院に各種会議等を通じて教育情報を周知することができる。	特記事項なし

最終更新日付	2024年5月2日	記載責任者	久保 由香理
--------	-----------	-------	--------

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>社会貢献・地域貢献 ボランティア活動</p> <p>本校の教職員が直接高等学校に出向く出前授業の実施や本校内での学校見学や体験授業等のインターンシップについては可能な限り積極的に対応している。</p> <p>以前は、地域や実習施設、隣接する高齢者福祉施設でのイベントにボランティアとして積極的に参加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、いまだ地域との交流はできていない。</p> <p>一心祭(学園祭)は、令和4年度までは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止や学内でのみの開催としていたが、令和5年度は、生徒の家族や地域住民の参加を勧め、地域との交流を少しずつ以前の状況に戻りつつある。</p> <p>ボランティア部の生徒をはじめ、生徒が積極的にボランティア活動に参加している。(熊本城マラソン等) コロナ前のように多くはないが、少しずつボランティア依頼も増加してきている。</p>	<p>今後は、以前のように地域住民と積極的に交流を図るとともに、関連業界や卒業生などに学校を開放するよう努めていく。</p>

最終更新日付	2024年4月27日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 10-35 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
10-35-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか	3	<p>高等学校等がキャリア教育の一環として行う職業理解のための出前授業では積極的に教員を派遣して職業への啓発活動に努めている。</p> <p>学校の実習施設等を活用した高等学校の職業教育等の授業実施（インターシップ）については可能な限り受け入れを行っている。</p> <p>本校の学園祭である「一心祭」では地域の方々への案内を積極的に行い、地域の子どもやお年寄りの参加も増えてきていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や縮小していた。令和5年度は生徒家族や地域の方々を受け入れる形での開催とした。</p>	<p>卒業生の施設の利用について積極的に受け入れていく必要がある。</p> <p>学園祭だけでなく、日頃から地域との連携を深める機会を増やしていく必要がある。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教員が高等学校に出向いて各職種の仕事内容ややりがいについて高校生や保護者に説明する機会（出張講義、出前講義）は、積極的に参加している。本校内での講義（インターンシップ）も積極的に受け入れている。学園祭では地域住民を招いて、交流を深める場を設けることができている。</p>	<p>日頃から地域に根差した取組みができるように地域の方々と更に交流・連携を図っていきたい。</p>

最終更新日付	2024年4月27日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------

## 10-36 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題とその改善方策	参照資料
10-36-1 生徒のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握し、学内で共有しているか	4	<p>本校の生徒が組織するボランティア部を中心として積極的に参加している。ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励している。</p> <p>今年度もコロナ禍の影響はあるが、少しずつ増加してきている。(熊本城マラソンボランティア・パラスポーツフェスタ熊本等に参加)</p>	部活動生を中心に活動を学校全体に広めていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校のボランティア部の生徒をはじめ、様々なボランティア活動に積極的に参加している。学校としてもボランティア活動への参加も奨励しているが今年度はコロナ禍の中で活動が実施できなかった。今後はアフターコロナの状況を考えて地域の団体と協議しながら進めていく必要がある。</p>	特になし。

最終更新日付	2024年4月27日	記載責任者	岡田・有働
--------	------------	-------	-------